

「母校への期待」

国際園芸アカデミー同窓会長 小笠原 悠

ただいまご紹介に預かりました岐阜県立国際園芸アカデミー同窓会会長の小笠原です。本日はこのような喜ばしい席にお招きいただき誠にありがとうございます。

この度、岐阜県立国際園芸アカデミーが創立 20 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。僭越ではございますが、卒業生を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

私は 2009 年に、当時存在した上級マイスター科の 6 期生として入学しました。1 年生の時には、初代学長の大川元学長に入学許可をいただき、その大川元学長が 1 年生の時に退任され、2 年生の時には 2 代目の上田前学長にいろいろ教えていただきながら、最終的には卒業証書いただいたということで、アカデミーの黎明期からまた次のステップへと進む時期の私たち 6 期生は学年だったのかなと勝手ながら思っています。

在学中は、お二人の学長はじめ、教職員の皆様から、手厚いご指導を賜りました。打ち込んだ勉強は学生それぞれでしょうが、私の場合は切花に関する研究を行いまして、その研究をまとめ、園芸学会に論文を投稿したことがアカデミーでの一番の思い出となっています。

卒業後十数年経った今ですけれども、私は名古屋で祖父が起こした園芸店を父と共に経営しています。昨年からはその子会社の代表を務めており、規模は小さいですが、ホームユースに特化した生花店というものをいくつか経営しています。

アカデミーには、私だけでなく多くの卒業生がいます。この 20 年の歴史の中で、私と同様、上級マイスター科を卒業された方が 43 名、そしてマイスター科の卒業生が 356 名いるそうです。その多くが今、園芸業界の様々な場面で活躍しています。また、私の祖父の話ですが、「植物は語って売るのがなんぼだ」と、よく言っています。私たちアカデミーの卒業生は、生産者視点、花屋さん視点、そして造園家視点といった様々な視点から植物と向き合って 2 年間過ごしてきました。そういった向き合い方をできたということは、私たち卒業生にとっては大きな武器だと日々感じています。これからも、母校と連携しながら園芸業界の発展に貢献していきたいと思っています。

最後になりますが、今後もアカデミーが多くの語れる園芸家を業界に送り出してくださることを願って、私の挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございました。